

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び、養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

本校の目的は、準学士課程については学則第 1 条に、専攻科課程については学則第 47 条に明確に定めている(資料 1-1-①-1)。

本校では、「我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う」を教育理念として掲げており、目的と教育理念のもとに、養成すべき人材像、学習・教育目標、準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時に達成すべき目標を設定している(資料 1-1-①-2)。また、入学志願者に対し受け入れ側から意思表示を行う「アドミッション・ポリシー」(資料 1-1-①-3)を定めている。アドミッション・ポリシーの詳細については基準 4 で述べる。

資料 1-1-①-1 本校目的に関する学則規定

米子工業高等専門学校学則(抜粋)

第 1 章 本校の目的

(目的)

第 1 条 米子工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(中略)

第 8 章 専攻科

(目的)

第 47 条 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(後略)

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

資料 1-1-①-2 本校の教育理念，養成すべき人材像，学習・教育目標，達成目標

1 本校の教育目標

1. 教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

2. 養成する人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしています。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

3. 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として以下の学習・教育目標を定めています。

- ① 技術者としての基礎力
- ② 持てる知識を使う応用力
- ③ 社会と自らを高める発展力
- ④ 地球の一員としての倫理力
- ⑤ 社会とかわるためのコミュニケーション力

4. 達成目標

本校では、上記の学習教育・目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けておきたい能力として以下のような達成目標を定めています。

【本科学生の達成目標】

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。

【専攻科学生の達成目標】

- ① 工学に関する様々な問題を自ら発見することができる。
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画のもとに解決することができる。
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

(出典 平成 19 年度学生便覧 pp. 1～2)

資料 1-1-①-3 準学士課程アドミッション・ポリシー

学生募集要項 (抜粋)

I アドミッションポリシー

本校の入学者に期待される人間像は、次のとおりです。

- ・ものづくりに関心があり、基礎学力を持った人
- ・自ら見つけた目標を達成するために挑戦していきける人
- ・文化や自然環境を大切にすること

(出典 平成 19 年度学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、養成しようとする人材像を含めた達成しようとしている基本的な成果等を明確に定めている。

その根拠理由として、学則で目的を定め、さらに理念や人材像などをより平易な表現で学生便覧等の冒頭に掲げている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点到に係る状況)

学校教育法第 70 条の 2 は、「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と定めている。この精神に則り、資料 1-1-①-1 (5 ページに前出) に示すように、学則第 1 条に目的を定めている。この目的を基礎として、教育理念、教育研究活動上の基本方針、学習・教育目標を定めており、平成 18 年度には準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時の学生の達成目標を新たに設定し、平成 19 年度学生便覧等に記載した(資料 1-1-①-2, 5～6 ページに前出)。また、各学科、専攻の目標を資料 1-1-②-1～3 のように定めており、各専門分野における深い専門教育を内容とし、工業技術者として職業に必要な能力の育成を目指している。

資料 1-1-②-1 準学士課程一般科目目標

(1) 教育の成果に関して達成すべき内容・水準

① 教養教育(一般科目)

人格の形成を促し、社会人・国際人として必要な知識・技術を付与するとともに、専門教育を受けるための基礎を築くことを目標とし、次のような能力を育成する。

- (1) 日本語による的確な読解力、表現力、思考力
- (2) 現代社会の成り立ちと課題を、歴史的、文化的背景とともに理解する力
- (3) 外国語によるコミュニケーション能力
- (4) 数学、自然科学及び情報技術に関する基礎的知識及びそれらを活用する能力
- (5) 自己の健康管理、能力開発を行い、自主的、継続的に活動する能力
- (6) 習得した知識を実践的かつ創造的に展開し、実際のものづくりに生かす能力

(出典 米子工業高等専門学校中期計画)

資料 1 - 1 - ② - 2 準学士課程専門学科目標

② 本科専門教育

実践的技術者として必要な次のような能力を育成する。

- (1) 基本的知識を基に、実験を計画・実行し、データを解析して結論を導く能力
- (2) 経済性、安全性、信頼性、社会・環境への影響を考慮しながら、現実のシステムにおける問題点を見出し、解決する能力
- (3) 常に問題意識を持ち、自分の個性を生かして自発的に問題を見つけ、解決する能力

各専門学科において目標とする具体的な能力は以下のとおりである。

なお、これらの能力の水準は、各学科に関連する日本技術者教育認定機構の分野別要件に準拠したものとす。

1 機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 力学現象における材料と構造に関する基礎知識・技術
- (2) 力学現象におけるエネルギーと流れに関する基礎知識・技術
- (3) 機械システムの運動と振動・騒音に関する基礎知識・技術
- (4) 機械システムの設計とその生産・加工・管理に関する基礎知識・技術
- (5) 機械制御システムを扱うための情報と計測・制御に関する基礎知識・技術
- (6) 機械制御システムを構築する上での実践的ものづくりに関する基礎知識・技術

2 電気工学科及び電気情報工学科

平成 16 年度より電気工学科を電気情報工学科に時代の要請に基づき名称変更する。いずれも電気主任技術者認定校の資格は継続維持するとともに、電気・情報通信関連の幅広い分野で活躍できる十分な基礎学力を具備した実践的技術者の養成を目標とする。

電気工学科

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 電気エネルギーの発生と輸送に関する基礎知識・技術
- (2) 電気機器の設計や制御に関する基礎知識・技術
- (3) 電子デバイスや半導体集積システムに関する基礎知識・技術
- (4) 情報伝送や通信ネットワークに関する基礎知識・技術
- (5) 情報の処理、加工などの情報システムに関する基礎知識・技術

電気情報工学科

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 電力システムやエネルギー変換に関する基礎知識・技術
- (2) 電気・電子機器の設計や新制御方式に関する基礎知識・技術
- (3) 高速半導体デバイスや高密度集積回路に関する基礎知識・技術
- (4) 次世代のネットワークやデジタル通信に関する基礎知識・技術
- (5) インターネットのセキュリティに関する基礎知識・技術
- (6) 情報システム及びソフトウェア開発に関する基礎知識・技術

3 電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータによる制御技術を習得し、制御回路、制御プログラム、機械システムの開発、設計ができる実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 電子デバイス（トランジスタ、FET、デジタルIC等）の基礎特性及び動作を理解する能力
- (2) 電子回路や制御回路を理解するための基礎知識と開発・設計するための応用技術
- (3) コンピュータ、プログラム、情報ネットワークを理解するための基礎知識技術
- (4) コンピュータを応用した機械システムや電子制御回路を構築するためのシステム化技術
- (5) 機械システムの構造及び特性を理解するための基礎知識と開発・設計するための応用技術
- (6) 機械システムを制御・最適化するための応用技術

4 物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 化学量論、熱力学、移動現象論に関する基礎知識と、それらを問題解決に応用できる技術
- (2) 有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、高分子化学、材料化学、生化学、環境化学、化学工学、プロセス工学に関する基礎知識と、それらを問題解決に応用する技術
- (3) 化学プロセスに応用される情報処理、電気工学、機械工学を理解する能力

5 建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 社会・環境に配慮して建築を企画・設計するために必要な基礎知識・技術
- (2) 安全な建築の構造を計画・設計するために必要な基礎知識・技術
- (3) 建築の生産を計画・管理するために、必要な基礎知識・技術

(出典 米子工業高等専門学校中期計画)

資料 1-1-②-3 専攻科課程目標

③ 専攻科専門教育

専攻科は、より高度な専門学術を教授するとともに、幅広い教養と優れた人格を備え、広く産業の発展に寄与することのできる自立した専門職業人としての技術者の養成を目標とする。専攻科各専攻は、日本技術者教育認定機構の教育プログラム認定を目指す。

各専攻は、以下の基本的能力を涵養し、その上に、各専攻の目指す能力を付与し、実践的開発型技術者を養成する。

- (1) 新たな技術を自主的に学習し、応用できる能力
- (2) 社会の要求を調査し、問題を発見し、習得した知識と技術を基にその問題を解決する能力
- (3) 習得した知識と技術の総合により、直面する課題の分析とそれを解決する能力及びその内容を第三者に伝達するコミュニケーション能力
- (4) 新たな技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を十分に予測できる能力

1 生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的技術者の養成を目的とする。本専攻の修了生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 機械システム、電気機器、電子デバイスの要素技術に関する基礎知識・技術
- (2) 機械システム、電気機器、電子デバイスの材料と構造に関する応用知識・技術
- (3) 機械システムの運動と振動に関する応用知識・技術
- (4) エネルギーと流れに関する応用知識・技術
- (5) 機械システム、電気機器、電子デバイスの設計と生産に関する応用知識・技術
- (6) 機械システム、電力エネルギー、電気機器、電子デバイスを計測、制御するための応用知識・技術
- (7) 情報伝送や通信ネットワークに関する応用知識・技術
- (8) 情報の処理、加工、制御を行うための情報システムに関する応用知識・技術
- (9) 要素技術を組み合わせてシステムを構築するための応用知識・技術

2 物質工学専攻

物質工学専攻は、材料及び生物に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。本専攻の修了生が備えるべき知識・技術及び能力は以下のとおりである。

- (1) 有機化学反応を利用し、有機化合物の合成を設計する知識・技術
- (2) 無機化学反応を利用し、無機化合物の合成を設計する知識・技術
- (3) 測定原理を理解し、環境分析等に利用する知識・技術
- (4) 熱力学的諸量を用い、物質の性質を理解するとともに、化学反応予測に利用する知識・技術
- (5) 単位操作・分離技術を利用して、化学プラントを設計する知識・技術
- (6) 材料化学の知識に基づいて、材料設計に応用する能力
- (7) 生物機能について理解し、物質生産に応用する能力

3 建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造力に富んだ実践的開発技術者を養成することを目標とする。本専攻の修了生が備えるべき知識・技術及び能力は以下のとおりである。

- (1) 建築・都市に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間をその地域の風土を考慮し、機能的かつデザイン的に計画できる知識・技術
- (2) 建築の室内及び外部空間において、エネルギー負荷を考慮しつつ快適かつ適正な環境を保持するための環境要素の予測・評価・調整に関する知識・技術
- (3) 建築構造物の内外で安心して生活が営まれるよう、構造上安全かつ経済的な建築空間ならびに構造種別・形式を選択・計画できる知識・技術
- (4) 持続可能な社会を念頭におき、既存の建築・都市空間の保存再生、環境負荷の低減かつ防災を意図した評価・改修の計画技術
- (5) 建築設計及び建築現場で有効な実践的知識・創造力

(出典 米子工業高等専門学校中期計画)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

その根拠理由として、学則、学科、専攻の目的が「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」に一致している。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は学生便覧（資料 1-1-①-2、5～6 ページに前出）、学校要覧（資料 1-2-①-1）及び Web ページ（資料 1-2-①-2）に掲載している。学生便覧は全教員及び全学生に配布している。学校要覧は資料 1-2-①-3 のように校内、校外に配布されているほか、Web ページでも公開されている。また、学科及び専攻の目標（資料 1-1-②-1～3、6～8 ページに前出）は、校内 Web ページで閲覧できるほか、学生便覧及び学校要覧（資料 1-2-①-4～5）にわかり易い

形で掲載している。また、不定期ではあるが、広報誌「彦名通信」に記事を掲載するとともに、後援会総会や支部会を通じ学生やその保護者に教育目標などについて周知を図っている（資料1-2-①-6）。本校の学習・教育目標は玄関や学生昇降口の計3箇所にパネルで掲示している。また、本年4月から全教室にも掲示している。さらに、校内6箇所に設置した電子掲示板では学習・教育目標や学生の達成目標を定期的に表示している（資料1-2-①-7）。このほか、新入生のオリエンテーションにおいて学校の目的等を周知している（資料1-2-①-8）。また、学校の目的等の周知の度合いは、教職員及び学生へのアンケートで検証している（資料1-2-①-9）。このアンケート結果より、教職員については学校の目的が十分に周知できていると判断できる。また、学生については60%以上の学生が卒業時に達成すべき目標（学習・教育目標）を知っているが、まったく知らないとした学生も10%強いることから、さらに多くの学生に目的等を周知する方法を検討している。

資料1-2-①-1 学校要覧の目的の部分



校 長
President

水 島 和 夫
MIZUSHIMA Kazuo

本校の教育目標

教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

養成すべき人材像

教育理念に基づき、次のような人材を養成する。

1. 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
2. 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
3. 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
4. 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
5. 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

学習・教育目標

本校では目指すべき技術者を養成するため、学生に以下の能力が身につくよう教育を行う。

1. 技術者としての基礎力
2. 持てる知識を使う応用力
3. 社会と自らを高める発展力
4. 地球の一員としての倫理力
5. 社会とかわるためのコミュニケーション力

— Goal of College education —

Educational Philosophy

Fostering creative engineers who promote fundamental technology for the future production system in Japan by providing technical education, with a lot of experiments and practical training, in close cooperation with the local community.

Ideal types of engineers to be fostered

To fulfill the above philosophy we aim to foster talented engineers as:

1. Engineers with a broad education bolstered by great sensitivity and ethics
2. Engineers with the ability to engage in practical production by making use of technical knowledge and skills
3. Engineers with the ability to discover and solve problems on their own initiative
4. Engineers with the ability to act internationally in consideration of the environmental protection, and to contribute to the local community
5. Engineers with the ability to compound and make use of broad engineering knowledge

Goals of Learning and Education

To foster the above engineers we provide students with education to have them develop these abilities:

1. Basic learning ability for engineers
2. Practical ability to make use of one's knowledge
3. Developmental ability to improve society
4. Ethical ability as a member of the earth
5. Communicative ability to interact with society

（出典 平成18年度 学校要覧）

資料 1 - 2 - ① - 2 目的を掲載した Web ページ

■教育理念

○教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

○養成すべき人材像

教育理念に基づき、次のような人材を養成する。

1. 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
2. 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
3. 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
4. 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
5. 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

○学習・教育目標

本校では目指すべき技術者を養成するため、学生に以下の能力が身につくよう教育を行う。

- A. 技術者としての基礎力
- B. 持てる知識を使う応用力
- C. 社会と自らを高める発展力
- D. 地球の一員としての倫理力
- E. 社会とかがわるためのコミュニケーション力

(出典 米子高専 Web ページ)

資料 1 - 2 - ① - 3 学校要覧配布物配布先一覧

配 布 先	部 数
職 員 等	38
名誉教授	27
国立高等専門学校	54
中国地区国立大学法人等	10
豊橋技術科学大学	1
長岡技術科学大学	1
文部科学省高等教育局専門教育課	1
国立学校財務センター	1
独立行政法人高等専門学校機構本部	10
鳥 取 県	1
米 子 市	1
境 港 市	1
鳥取県産業技術センター	3
(財)鳥取県産業振興機構	1
米子高専振興協会	100
教務係(進路指導用, 留学生用, 入試説明会用)	200
学生係(就職用)	200
後 援 会	50
P R 用	300
保 存 用	1
予 備	199
合 計	1,200

(出典 総務課資料)

資料 1 - 2 - ① - 4 各学科・専攻の目的
(抜粋)II 教育課程
(中略)

一般科目・各学科・専攻科の概要

一般科目

(中略)

これらの教育を通じて、わが国に、更に国際社会に役立つ有為な人材を育て送り出すことが、本校の一般科目の教育理念であり、目的である。

機械工学科

(中略)

本校の機械工学科では、まず学生がこの機械工学の「基礎知識」をしっかりと身につけること、そしてそれらの基礎を実際の場面で「応用」できる力を磨くことを大きな目標においている。その上に立って、より高度な機械を創り出す上で欠かせない、電気工学、電子工学、情報処理、さらにコンピュータによる機械の制御に関する基礎的内容も取り入れることにより、個々の機械だけでなく、より幅広い立場に立って「機械システム」を扱える技術者の養成を目指している。

(後略)

(出典 平成 19 年度学生便覧 pp. 5～12)

資料 1 - 2 - ① - 5 各学科・専攻の目的
(抜粋)

専攻科は、高専5年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践的技術者を育成するために設けられた2年制の課程です。

専攻科の課程を修了すると、大学評価・学位授与機構の認定を得て、学士（工学）の学位を取得できます。これにより、大学卒業と同じ資格で就職したり、大学院への進学が可能となります。

生産システム工学専攻 Production System Engineering Course

情報技術と異種分野の融合が拡大しつつある現在、高度に発達した情報システムによってネットワーク化された電気・電子、機械・制御技術に対応するために、柔軟な適応能力と広い視野を持った実践的技術者を育成します。

物質工学専攻 Materials Science Course

材料工学及び生物工学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的技術者を育成します。

建築学専攻 Architecture Course

建築学に関する幅広い教養と豊かな人間性を備え、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる実践的で創造力に富んだ技術者を育成します。

(出典 平成 18 年度学校要覧 pp. 8～19)

資料 1 - 2 - ① - 6 広報誌「彦名通信」
(抜粋)

**米子高専の充実に向けて、
新年度からの取組**

校長 水島 和夫



平成18年度が始まっています。5月26日、設備面で後援会から貴重なご支援をいただいた専攻科棟の竣工式が行われました。昨年11月には実習工場が「ものづくりセンター」と名を改めてリニューアルされるなど、

平成14年の校舎全面改修以来続けてきた本校の施設面の充実は一歩進みました。これからは、本校の中身の一面の充実を図ることが求められ、そのための取組を進めています。取組の第一は、本校教育理念の見直し・充実です。平成18年度版の学生規程に明示しましたが、本校が「日本の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者」として養成を目指す従前からの4つの人材像に、新たに、「幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材」を加えました。今春第1回修了生を送り出した専攻科の教育に対処するもので、より高度な実践的開発型技術者の育成を図っていく取組です。

さらに、教育理念の中に新たに、「学習・教育目標」として、本校の教育の中で学生に身につけてもらう能力を掲げました。1.技術者としての基礎力、2.持てる知識を応用する力、3.社会と自らを高める発展力、4.地球の一員としての倫理力、5.社会と関わるためのコミュニケーション力、

の5つです。これは、国際的水準の技術者教育を行う高等教育機関として認められるために本校が目指す A B E E (日本技術者教育認定機構)の審査に対応するためのもので、この教育目標に沿ってカリキュラム等の改善・充実を進めており、この新学期から授業時間も従来の45分を50分に改めました。

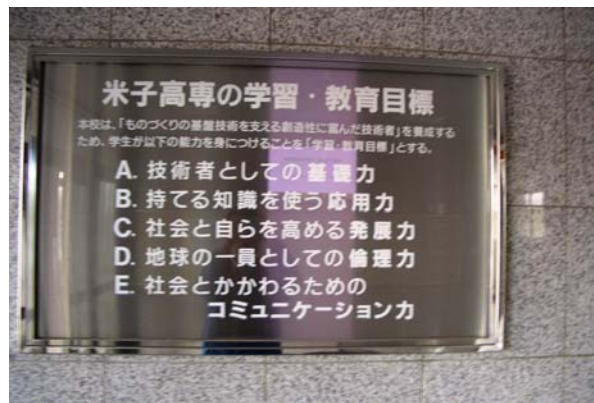
上記5つの能力は授業の中で培えるものではなく、課外活動その他5年間の学生生活の中で総合的に形成されるものです。中でも、「コミュニケーション力」については、学生が将来社会に出た時に必要とされ、今後一層重要性が増すと考えられますので、自らの考えや研究を相手に分りやすく表現し、質問にも適切に応じ得る能力、例えば卒業研究の口頭発表会を適切に行なうこととしたいと思えます。

以上のように、米子高専は教育面の充実と努力を継続していきませんが、学生の情熱についても一層の心配りが必要だと考えています。今年度から学校として試みる学生の取組会（劇団を招いての演劇鑑賞会を9月に予定。）は新しい取組の一つです。また、学生の心の相談にあたる専門のカウンセラーをこの4月から2名体制にしました。

(出典 平成 18 年 7 月 No. 145 彦名通信)

資料 1 - 2 - ① - 7 パネル掲示・電子掲示板

パネル掲示 (正面玄関)



電子掲示板 (正面玄関)



資料 1 - 2 - ① - 8 新入生オリエンテーション資料

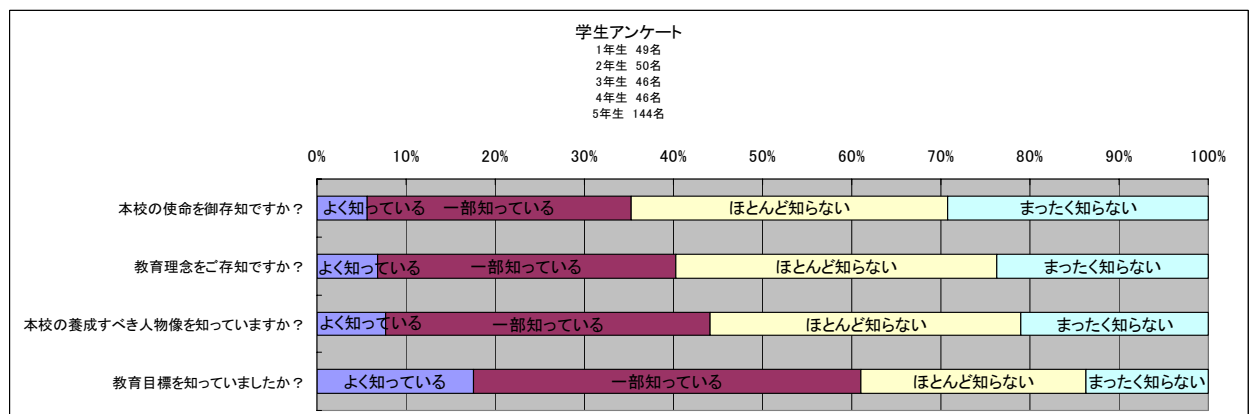
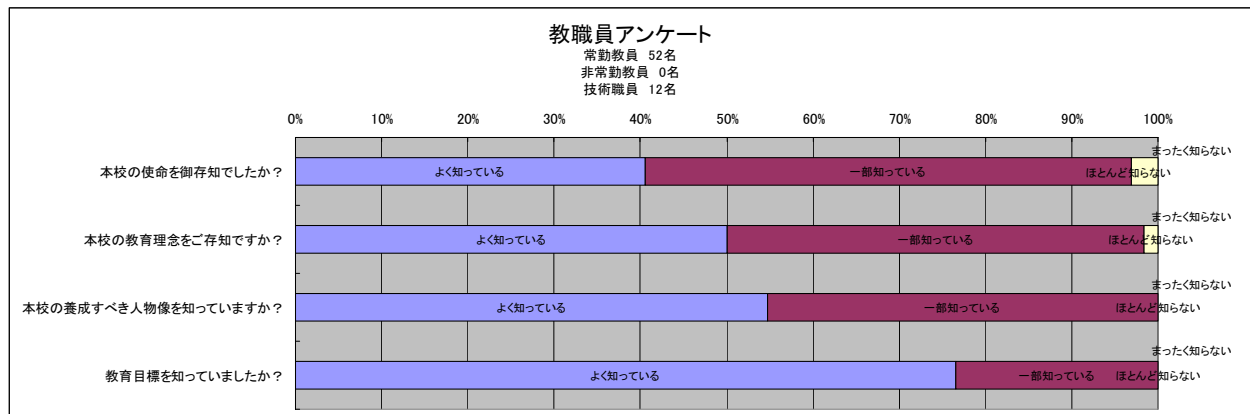
平成 1 8 年度新入生オリエンテーション日程表

日 時 平成 1 8 年 4 月 6 日 (木) ~ 4 月 7 日 (金)
場 所 本校・大山ホワイトパレス TEL (0859) 52-2721

4月6日(木)				4月7日(金)			
時刻	行 事	担 当	場 所	時刻	行 事	担 当	場 所
8:45	点呼 H・R			7:30	起床・洗面		
	合同講義室へ誘導	学級担任		8:00	点呼	室長・担任	
9:00	講話	教務主事 学生主事 学生相談室長	合同講義室	8:30	朝食		
	玄関前へ誘導			9:00	クラス別ミーティング	学級担任	
9:30	写真撮影(撮影の合間にH・R)	学生部	玄関前	10:30	大山寺まで散歩	学級担任	雨天時: クラス別ミーティング
11:00	学校出発			12:30	昼食 整理・清掃		
12:00	宿舎到着・身辺整理			13:30	感想文等作成	学級担任	食事の場所
12:30	昼食			14:00	点呼	学級担任	
13:30	講話	教務部 教務主事補		14:10	宿舎出発	室長・担任	
16:00	クラス別ミーティング	学級担任		15:00	学校到着(男子は米子駅のみで途中下車可)		
18:30	夕食			15:30	講話	学生部	合同講義室 (女子学生のみ)
19:30	入浴 男子 M科 19:30 ~ 22:00 地階浴室A E科 19:30 ~ 21:00 1階浴室E D科 19:30 ~ 21:00 地階浴室B C科 21:00 ~ 22:00 1階浴室E A科 21:00 ~ 22:00 地階浴室B 女子 M, E, D科 19:30 ~ 20:30 地階浴室C C科 20:30 ~ 22:00 地階浴室C A科 19:30 ~ 22:00 地階浴室D			16:00	解散		
22:10	点呼	室長・担任	廊下	◎食事場所: 当日指示			
23:00	消灯			◎クラス別ミーティングの内容及び場所 自己紹介 諸規則等の説明(学生便覧とシラバス) クラス役員の選出 健康の日の日程について 場所 当日指示			
				◎朝の点呼 晴天時: 前庭 雨天時: 食事の場所			

(出典 学生課資料)

資料 1-2-①-9 教職員・学生アンケート結果



(出典 平成 18 年度第 2 回評議員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、学校の構成員に配布物により繰り返し周知しているほか、入学時のオリエンテーションで始めに周知している。また、校内への学習・教育目標の掲示を行い、常に学校の構成員が確認できるようにしている。

以上のように、構成員には様々な方法で周知を行っているが、約10%の学生には学習・教育目標等が認識されていないため、今後一層の周知努力が必要である。

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点到に係る状況)

本校の理念、人材像、学習・教育目標等を掲載した学校要覧(資料1-2-①-1, 9ページに前出)を米子高専振興協力会、入試説明会、求人企業、後援会などに広く配布(資料1-2-①-3, 10ページに前出)することにより公表しているほか、年2回実施している学校見学会(オープンキャンパス)や県内外で行われる学校説明会で本校のアドミッション・ポリシーなどを記載した学校パンフレット(資料1-2-②-1)を中学生などに配布している。また、校外で実施している公開講座、ジョイント講座や出前講座にも学校要覧や学校パンフレット等を持参し、参加者に配布している。さ

らに、Webページに理念、人材像等を掲載したページを作成し（資料1-2-①-2，10ページに前出），学校要覧や学生募集要項（資料1-1-①-3，6ページに前出）などもWebページで公開することによって広く社会に公表している。また，学習・教育目標を校内玄関等に掲示し（資料1-2-①-7，11ページに前出），来校者に広く公開している。公表の度合い及び外部の認識度については，本校卒業生・修了生の就職先企業にアンケートを実施し，検証している（資料1-2-②-2）。

資料1-2-②-1 学校パンフレット

準学士課程学校パンフレット

15才から専門家を目指す

米子高専では次のような人を求めています。(卒業生インタビュー)
 1.ものづくりに関心が多く、基礎学力を持った人
 2.自ら見つけた目標を達成するために挑戦しつづける人
 3.文化や自然環境を大切にできる人

5つの専門学科と専攻科

- M 機械工学科
- E 電気情報工学科
- D 電子制御工学科
- C 物質工学科
- A 建築学科
- S 専攻科

1学年：5学科×40名=200名
 1学年：3専攻科=20名

プロを育てる5年間一貫教育
米子高専 2007
 ヨナゴ コサケン

お問い合わせ先
 米子工業高等専門学校
 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448
 学生課 教務課 Tel.0859-24-5022
 E-mail: pr@yonago-k.ac.jp
 URL: http://www.yonago-k.ac.jp/

(資料1-2-②-1 学校パンフレット)

専攻科課程学校パンフレット

独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校 2007
専攻科 生産システム工学専攻
 物質工学専攻
 建築学専攻

米子で取れる大卒資格*

※専攻科の課程を修了し、(注)大学評価・学位授与機構の審査に合格すると、大学卒業と同等学位を得て、就職・進学することができます。

H18年度 専攻科棟 運用開始!

オープンキャンパスでの特別研究発表発表会

専攻科とは

専攻科は、高専本科5年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践的技術者を養成するために設けられた2年間の課程です。本専攻科では、特に以下の視点を備えた技術者の育成を行います。

(1)幅広い教養と豊かな創造性
 (2)高度な実能力
 (3)国際性

そのため、高い技術力に支えられた高専制度の特徴である、少人数教育による学習システムを推進しています。そして、実験・実習等の実践的教育に基づいた、豊かな創造力と卓越した研究開発能力及び問題解決能力を身に付けられるべく、地味的視点から歴史・文化や英語・資源に対する理解と国際的に通用するコミュニケーション能力を磨き、地域社会及び国際社会への貢献ができる技術者の育成を行います。

大学院
 大学
 高校

進学
 就職
 社会人
 専攻科
 高専本科
 大学
 大学院

専攻科の位置付け

平成19年度の入学試験概要

募集人数	●生産システム工学専攻 12名 ●物質工学専攻 4名 ●建築学専攻 4名		
選抜区分	出願期間	検査日	選抜方法
推薦選抜	平成18年5月15日(月)～5月18日(木)	平成18年5月27日(土)	面接検査
学力選抜	前期日程 平成18年6月12日(月)～6月15日(木)	平成18年6月24日(土)	学力検査・面接検査
社会人特別選抜	平成18年11月27日(月)～11月30日(木)	平成18年12月9日(土)	面接検査

- 検定料 16,500円
- 入学資格 (次のいずれかに該当する者)
 - 1) 高等専門学校を卒業した者。
 - 2) 短期大学を卒業した者。
 - 3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち大学に編入することができる者。
 - 4) 外国の学校教育における14年の課程を修了した者。
 - 5) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
- アドミッションポリシー
 - 1) 基本的知識を有し、さらに高度な専門知識を学びたい人
 - 2) 主体的に物事に取り組み、解決しようとする意欲のある人
 - 3) 学んだ技術を生かして社会に貢献する意欲のある人
 - 4) 他の人と協働しながら物事に取り組める人

卒業後の進路 (平成17年度)

- 専攻科修了者に対する企業及び大学院の評価は高く、希望する進路へ容易に進むことができます。
- 主な就職先
 - NITフロンティアズ
 - 日産テクノ
 - セブテック建築研究所
 - 日本セラミック
 - オムロン倉吉
 - 鳥取三洋電機
 - 主な進学先
 - 奈良先端科学技術大学院大学
 - 鳥取大学大学院
 - 九州工業大学大学院

***高専→大学院への最短コース!**

※高専本科から大学院へ進路は、2年次入試と同等の成績を得ることと同等ですが、本科から大学院へ編入した場合は、単位認定のため大学院卒業まで1年間かかる場合があります。

勉学に必要な経費

項目	金額
入学科	84,600円
授業料	年額 234,600円
教科書代	別途各専攻から指示があります。

入学科・授業料は国立大学の半額以下!



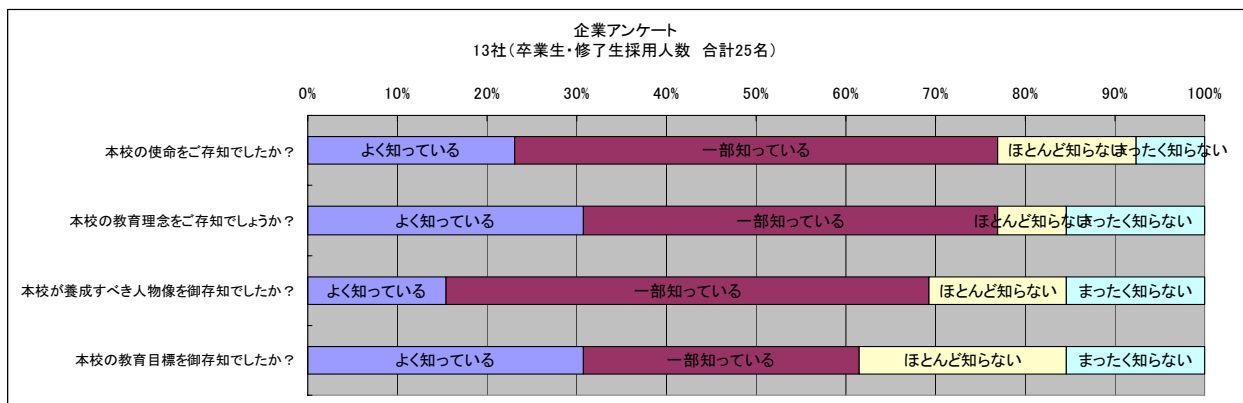
奨学金制度など

経済的理由により修学が困難な方については、日本学生支援機構等の奨学金制度があります。また、入学科、授業料の免除制度があります。専攻科の免除基準は本科のものよりも緩やかで、成績優良であれば、比較的免除されやすい傾向にあります。

問い合わせ先
米子工業高等専門学校
 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448
 TEL (0859)24-5022 学生課勤務
 ホームページ <http://www.yonago-k.ac.jp>
 電子メール pr@yonago-k.ac.jp

(出典 平成18年度学校パンフレット)

資料1-2-②-2 企業アンケート結果



(出典 平成18年度第2回評議員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的を社会に広く公表している。

その根拠理由として、上記に示す印刷物の配布、Webページによる公開を行っており、アンケート結果から広く社会に公表・認識されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の学習・教育目標などは、学生便覧や学校要覧などに掲載し、玄関等複数箇所にパネルや電子掲示板で掲示しており、学校の構成員すべてに公表している。さらに、本校の入学希望者や求人企業等にも公表している。

(改善を要する点)

本校の目的・学習教育目標が学生へ十分に周知されているとは言えず、より一層の周知努力が必要である。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校は、学校教育法第70条の2に基づき、本校の使命、教育研究活動上の基本方針、学習・教育目標及び学生の達成目標を明確に定めている。これらは高等専門学校一般に求められる目的からはずれたものではない。そして、これらを学生便覧など学生等に配布する資料、学校要覧などの広報資料あるいはWeb等に掲載するとともに、掲示板及び電子掲示板で表示し、学校構成員及び社会に対する周知を図る努力を行っている。